

高校で進む情報教育

今年1月に実施された2026年度大学入学共通テストには全国で約50万人が志願し、うち県内の高校などの出身者は6575人だった。全国では志願者の93.52%が受験した。共通テストを入学試験に利用した大学などは国公立大学176校を含む813校に上った。

22年度に高校で必修科目となった「情報Ⅰ」は基本的な情報技術と情報を扱う方法とともに情報モラルを身に付けさせ、情報社会と人間との関わりについても考えさせる。25年度の共通テストからは出題科目に追加された。

26年度の「情報Ⅰ」の平均点は56.59点と昨年度の69.26点から12.67点下がった。難しくなっているとみられ、受験生の苦勞が伺える。

県立学校（高校、特別支援学校高等部）では文部科学省が推進する1人1台端末を前提としたICT（情報通信技術）活用学習を進めるため、入学時に生徒が各自で学習用端末を購入する。25年度は県立高校56校のうち、51校がクロームブック、4校がアイパッド、1校がウィンドウズを選定している。

県教育委員会によると、経済的な事情で学習用端末を購入できない場合は、各校に整備している端末を貸与する措置や高校生等奨学給付金受給世帯には通信料相当を含めた額が給付されるなどの支援措置が取られている。

最近、百五総合研究所が企業の社員研修などを請け負う際に、企業の研修担当者からは「情報公開していない自社製品を先出し」「社内の悪口をSNSに書き込む」などの声を聞く。基本的な情報の取扱いはもちろん、情報と人との関わりを学ぶことは今や必須であると思われる。

また、新年度の初めに開催するビジネスマナーや社会人としての基礎知識について実習を通じて学べる研修会では、近年SNSとの付き合い方など情報リテラシーを含めた内容が加わっている。

学生たちが「情報Ⅰ」を含む高校での学びによって今後につながる豊かな可能性を开花させ、これから社会に出たり、大学などに進学したりする中で、より学びを深め、いつか三重で活躍する日が来るのが楽しみである。

（地域共創事業部 コンサルティンググループ 研究員 梅川 真理子）